

ゼミ会員各位 8月ゼミのシラバス

その後、お変わりなくお過ごしのことと拝察申しあげます。
先月の十七日、久しぶりにゼミを開催することが出来ました。皆様方のお力添えの賜物です。
出席者はみな元気でした。

十七日のゼミの活動内容について報告します。

出席者は七名で、うち二人が新規に参加された方々でした。

- 1 今後の活動内容についての話し合いは、第二期「鶴屋の会」の立ち上げを推進されたメンバーが欠席のため、8月以降の会で行うことに変更しました。
- 2 「五十音」の練習を重ね、「公開稽古」の形式で発表する。
- 3 「公開稽古」では、ウィルソンの「もしもこちらせせらぎです」も併せて発表する計画案を提示しました。

7月ゼミのプログラム1

50音の稽古を行った。

2行（「あ行」と「か行」、「さ行」と「た行」、「な行」と「は行」、「ま行」と「や行」、「ら行」と「わ行」）をワン・ブレスで言い切る稽古。これは滑舌と呼吸法のエクササイズを兼ねている。おそらくすべての2行をワン・ブレスで、正確で俳優らしい資質をもった声で発音することは簡単には達成できない。しかし精進すれば不可能ではない。

ゼミのプログラム2

ゼミの後半は「もしもこちらせせらぎです」の読み合わせを行った。新しい参加者もいたので、担当する役を決めて、全体の3分の2ほどを読んだ。

8月ゼミのプログラム

8月のゼミでは下記の音声学的理解を深めたいと思っている。

「あ」行の音は、いわゆる母音であるが、それぞれの音を単独で発音する場合、喉の奥の声門の開閉が生じる。したがって、これは声門閉鎖音(Glottal Stop)になり、声門が大きく関与している。

「か」行の音は、軟口蓋の閉鎖音ですから、軟口蓋が大きく関与します。

「さ」行の音は、歯茎の摩擦音ですから、歯茎が大きく関与します。

「た」行の音は、歯茎の閉鎖音ですから、歯茎が大きく関与します。

「な」行の音は、歯茎の鼻音ですから、歯茎が大きく関与します。

このように、「あかさなたな」の順番は、その発音に大きく係る部分に従って、喉の奥から口の前の方という配列になっている。この事実を理解して、自分の発声器官の動きをチェックしながら五十音のエクササイズを行う。¹

「語る・話す」芸は、最低「五十音」2行をワンブレスで処理できる資質能力を持っている。途中で息や舌・唇・歯の動きがフォロー出来なくなっても、達成基準をクリアするための

¹ 「言語学の基礎」アカサタナの謎：音声学の基礎（弘前大学）

自己との戦いに挑戦する。公開の時、息が続かなくなって苦闘するも、表現者が錬成する輝きを見ていただく。

「もしもしせせらぎです」の稽古の目的を再確認する。
この作品を使って、肉体と声と感性を研こう。その成果と稽古の実際を公開する。抜き稽古になってもいい。短いシーンを何回も稽古し、台詞の演劇的機能、声をコントロールするスキル、感情（俳優のものと観客のもの）を処理するスキル、これまでにない肉体の精緻なコントロール・スキル、俳優のパッションと役のパッションを融合させる手がかりを探求する。私たちのパッションは衰えていないか？ ダルになったパッションや表現機能・スキルに気づかずに、漫然と演劇をやっていないか。²
次に、アンサンブル演技について議論し、実践する。

小林 志郎

² performing arts は、心と身体のエネルギーを燃焼させ、汗をかく芸術行為と考える。特に稽古においては。そういう激しいエネルギーの燃焼を、稽古のなかで体験しよう。